

ふじの開花は黒石で5月2日頃！
「ふじの展葉1週間後頃」の薬剤散布は4月21～22日頃!!
「ふじの開花直前」の薬剤散布は5月1～2日頃!!!
凍霜害対策を徹底し、結実確保に全力を!!!!

I 概 要

ふじの展葉日は、黒石（りんご研究所）で平年より4日早い4月14日、五戸（県南果樹部）で平年より2日早い4月17日であった。

今後も気温が高いと予測されることから、黒石におけるふじの開花日は、平年より5日早い5月2日頃と見込まれる。

「ふじの展葉1週間後頃」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で4月21～22日頃、
「ふじの開花直前」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で5月1～2日頃である。

コンフューザーRを5月中旬に設置できるように準備する。

低温に最も弱い生育ステージとなっているので、気象情報に十分注意し、凍霜害対策を必ず行う。

結実確保のため、マメコバチの管理を徹底するとともに、積極的に人工授粉を行う。

黒星病、モニリア病の重点防除時期なので、必ず適期に散布する。

昨年腐らん病の発生が多かったことから、引き続き注意して観察し、見つけ次第適切に処置する。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

Ⅱ りんご生産情報

1 生育、作業の進み、病虫害の動き

(1) 生育ステージ

ふじの展葉日は、黒石（りんご研究所）で平年より4日早い4月14日、五戸（県南果樹部）で平年より2日早い4月17日であった。

今後も気温が高いと予測されることから、黒石におけるふじの開花日は、平年より5日早い5月2日頃と見込まれる。

○発芽日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	4. 4	3. 31	4. 3	4. 7
	平 年	4. 6	4. 5	4. 6	4. 7
	前 年	4. 3	3. 30	4. 1	4. 5
五 戸 (県南果樹部)	本 年	4. 4	4. 1	4. 3	4. 4
	平 年	4. 7	4. 5	4. 6	4. 7
	前 年	4. 5	4. 2	4. 3	4. 5
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	4. 9	－	4. 6	4. 9
	平 年	4. 8	－	4. 6	4. 8
	前 年	4. 5	－	4. 3	4. 6
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	4. 1	3. 28	3. 28	3. 31
	平 年	4. 6	4. 4	4. 4	4. 6
	前 年	4. 3	4. 1	4. 1	4. 4
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	4. 6	－	4. 5	4. 7
	平 年	4. 6	－	4. 4	4. 8
	前 年	4. 2	－	4. 3	4. 4
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	3. 27	－	－	4. 1
	平 年	4. 5	－	－	4. 6
	前 年	4. 2	－	－	4. 3

注1) 発芽日：頂芽の頂部が破れ、青味の現れたものが3個以上認められたとき

2) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測は調査データ

○展葉日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	4. 14	4. 10	4. 11	4. 14
	平 年	4. 19	4. 14	4. 16	4. 18
	前 年	4. 12	4. 8	4. 9	4. 11
五 戸 (県南果樹部)	本 年	4. 17	4. 11	4. 13	4. 17
	平 年	4. 22	4. 17	4. 18	4. 19
	前 年	4. 14	4. 11	4. 12	4. 14
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	4. 17	—	4. 13	4. 17
	平 年	4. 21	—	4. 16	4. 18
	前 年	4. 14	—	4. 9	4. 13
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	4. 15	4. 11	4. 12	4. 14
	平 年	4. 19	4. 14	4. 14	4. 17
	前 年	4. 13	4. 8	4. 10	4. 13
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	4. 17	4. 16	4. 16	4. 16
	平 年	4. 19	4. 15	4. 16	4. 18
	前 年	4. 12	4. 11	4. 12	4. 12
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	4. 14	—	—	4. 12
	平 年	4. 18	—	—	4. 16
	前 年	4. 12	—	—	4. 9

注) 展葉日：正しい葉形が一枚でも認められたとき

2) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

○開花日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	(5. 1)	(5. 1)	(4. 30)	(5. 2)
	平 年	5. 7	5. 7	5. 5	5. 7
	前 年	4. 27	4. 26	4. 25	4. 27
五 戸 (県南果樹部)	本 年	—	—	—	—
	平 年	5. 9	5. 8	5. 7	5. 9
	前 年	4. 28	4. 27	4. 27	4. 28

注1) 開花日：1 樹で1～2 花開花したとき

2) () は予測開花日、—は予測値なし

(2) 作業等の進み(4月16日現在)

剪定は終盤。枝片付けが行われている。

(3) 病害虫の動き

(4月16日現在 りんご研究所)

モニリア病	子のう胞子の飛散始まる（子実体の発生 本年：4月10日、 平年：4月16日）
腐らん病	病斑の伸展、胞子の飛散とも継続中
黒星病	子のう胞子飛散中 まもなく葉の病斑がみられる（発生初発 平年：5月11日） 感染危険度は農ナビ青森(https://www.nounavi-aomori.jp) に掲載中
うどんこ病	まもなく分生子の飛散始まる （芽しぶの発生 平年：4月14日）
キンモンホソガ	まもなく越冬世代成虫の羽化が始まる （誘引初発 平年：4月21日）
ギンモンハモグリガ	まもなく越冬世代成虫による葉への産卵が始まる
ミダレカクモンハマキ	まもなく越冬卵からのふ化が始まる （ふ化初発 平年：4月18日）
リンゴハダニ	まもなく越冬卵からのふ化が始まる （ふ化初発 平年：4月29日）

2 作業の重点

(1) 剪定

まだ終了していない園地は、粗抜き（大枝抜き）を主体に実施し、施肥、薬剤散布を優先した後にハサミ入れを行う。

(2) 枝片付け

枝片付けが遅れている園地は急いで行い、薬剤散布に支障をきたさないようにする。間に合わない場合は木の根元によせてスピードスプレーヤの走路を確保する。ただし、剪定枝は園内に放置したり積んでおくと、腐らん病、リンゴハダニ、ハマキムシの発生源となるので早めに処置する。

(3) 雪害を受けた樹の処置

樹皮と木質部が3分の1以上残っている枝は、修復が可能なので、以下のように処置する。

ア 普通台樹

主枝や垂主枝、側枝など大きな枝で回復可能な枝は傷口を密着させて、かすがいやボルト等で補強し、支柱で支える。

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。
(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



二次元コード1
：準備



二次元コード2
：裂開部の整形



二次元コード3
：裂開部の接合



二次元コード4
：裂開部の固定



二次元コード5
：主枝の固定・
裂開部の保護

樹形を損ねる被害を受けた樹では、徒長枝を利用したり、高接ぎなどで樹形の立て直しを図る。

イ わい性台樹

側枝のゆ合が可能な場合は、早い時期にビニールなどできつく縛って傷口を密着させ、ひもなどで吊り上げる。側枝が不足となった樹は目傷等により側枝の発生を促したり、主幹部に接ぎ木して側枝の補充を図る。

なお、3分の2以上裂開している枝は、ゆ合の見込みがないので早めに剪去し、塗布剤を処置する。枝折れ、裂開などの被害部も腐らん病や銀葉病の侵入門戸となるので、傷口に塗布剤を処置する。

(4) 野ネズミ対策

ア 主幹を食害された場合

地際部付近の樹皮を完全に一周して食害された場合は、盛土を行い、カルスの形成を促すと同時に、可能なものは寄せ接ぎを行う。

地際部以外の主幹では、食害の程度に応じて塗布剤を塗布するか、テープを巻いてカルスの形成を促す。

いずれも食害が甚だしいものは植え替えを行う。

イ 成り枝を食害された場合

健全部または食害が少ない部位まで切り戻す。

ウ 駆除

野ネズミの密度が高い園地では、融雪後も根の食害を中心に被害が継続するので、通年で駆除対策を徹底する。殺そ剤を使用する場合は、農薬使用基準を遵守する。

(5) 薬剤散布

第1回目：「ふじの展葉1週間後頃」

「ふじの展葉1週間後頃」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で4月21～22日頃である。地域や天候によっては散布時期が異なるので、展葉日や気象情報を参考にする。また、黒星病、モニリア病の重点防除時期なので、必ず適期に散布する。

「ふじの展葉 1 週間後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	4 月 21～22 日頃	マシン油乳剤 200 倍 ベフラン液剤 1, 000 倍	3 0 0 0

リンゴクビレアブラムシの発生が多い園地では、バリアード顆粒水和剤4, 000倍も使用する。キンモンホソガ、ギンモンハモグリガの発生が多い場合は、デミリン水和剤4, 000倍、ノーモルト乳剤4, 000倍またはバリアード顆粒水和剤4, 000倍も使用する。

前年にクワコナカイガラムシの果実被害が見られた園地では、アプロードフロアブル1, 000倍も使用する。

発芽前にマシン油乳剤50倍を散布した園地では、「ふじの展葉 1 週間後頃」のマシン油乳剤200倍の散布は必要ない。

第 2 回目：「ふじの開花直前」

「ふじの開花直前」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で5 月 1～2 日頃である。地域や天候によっては散布時期が異なるので、予測開花日や気象情報を参考にする。また、黒星病、モニリア病の重点防除時期なので、必ず適期に散布する。

「ふじの開花直前」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	5 月 1～2 日頃	SDHI 剤 (ネクスターフロアブル 1, 500 倍 フルーツセイバー 2, 000 倍 ロンセラーフロアブル 3, 000 倍 カナメフロアブル 4, 000 倍 パレード 1 5 フロアブル 2, 000 倍)	3 2 0 0

ミダレカクモンハマキの発生が多い園地では、「ふじの開花直前」及び「ふじの落花直後」の散布にアタブロン S C 4, 000 倍、ロムダンフロアブル3, 000 倍、B T 剤（ファイブスター顆粒水和剤、バイオマックス D F）3, 000 倍のいずれかを選択し、同一薬剤を連続して使用する。

(6) 施肥・土壌改良

ア 施肥

施肥を終えていない園地は速やかに行う。

枝の折損が大きい樹は、樹勢が強くなることが懸念されるので、肥料は半減するか施用しないようにする。剪定終了後の樹が平年の着果量を確保できる状況であれば、例年どおりに施肥する。

なお、倒伏したり、野ネズミの食害がみられる場合、また、頂芽数が半分以上減少する甚大な折損被害を受けた樹では、発芽から開花後に「新梢の伸びが

悪い、葉が小さい、葉色が淡い」等の症状が現れ、樹勢が弱まることもある。
このような場合は、展葉後から6月中旬までの間に尿素0.2%液（500倍）を3～4回散布する。

イ 土壌改良

土壌酸性化の防止と土づくりのため、堆肥（10a当たり600kg程度）と苦土を含む石灰質肥料（10a当たり100kg程度）を5月上旬頃までに樹冠下に施用し、軽く耕うんする。

苦土を含む石灰質肥料は、三要素肥料を施用後に降雨があった2～3日後に施用する。降雨がない場合は2週間くらい後に行う。

土壌分析を実施し、必要な量の改良資材を施用する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

（7）交信攪乱剤の準備

モモシンクイガやリンゴコカクモンハマキは通常の殺虫剤だけでは防除が困難なため、コンフューザーRを5月中旬に設置できるように準備する。

広い面積で処理するほど効果が高まるので、地域ぐるみで取り組み、発生密度の低下を図る。

交信攪乱剤「コンフューザーR」

薬剤名	使用量	適用病害虫
コンフューザーR	100本/10a	モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキ

設置点を多く取ることが重要なため、園地全体に均一に取り付け、まとめて1か所に取り付けることはしない。園地の周辺部は性フェロモン濃度が低下しやすいため、多めに取り付ける。また、性フェロモンは空気よりも重いため、園地に傾斜がある場合には傾斜の上部に多めに取り付ける。雪害で樹が失われた場合でも、面積当たりの設置本数を減らすことなく、基準の使用量を守る（10a当たり100本）。

コンフューザーRの具体的な設置方法については、農ナビ青森に掲載している。

(<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8495>)



（参考）栽植距離別の1樹当たりコンフューザーRの設置本数の目安

栽植距離	10a当たり 栽植樹数	1樹に設置する コンフューザーRの本数
8×8m（普通樹）	16樹	6.25本（1樹に6本設置）
4×2m（わい化）	125樹	0.8本（5樹に4本設置）
3.5×1m（高密植）	286樹	0.35本（3樹に1本設置）

(8) 凍霜害対策

花芽の耐凍性は、生育の進みとともに低下し、花蕾着色期までは約 -2°C 、開花始めから満開期は -1.5°C に1時間置かれた場合、障害が発生する恐れがあるので、気象情報に十分注意し、対策を必ず行う。

(単位： $^{\circ}\text{C}$)

	発芽期	展葉初期	花蕾露出始期 ～花蕾露出期	花蕾着色期	開花始～ 満開期	落花期
リンゴの 生育ステージ						
安全限界温度 ($^{\circ}\text{C}$)	-2.1	-2.1	-2.1	-2.0	-1.5	-1.7

資料：福島県農業総合センター果樹研究所ホームページ内技術情報「果樹の凍霜害危険度推定シート」

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37201a/>)

ア 防霜ファンによる防止

温度検知器は、地上1.5mに設置し、防霜ファンの始動温度を 2°C に設定する。

寒気を伴ったときや著しく低温になったときは、燃焼法を併用する。

イ 燃焼法による防止

燃焼法を行う場合は、「火災と紛らわしい煙又は火災を発する恐れのある行為の届出書」などを最寄りの消防署に提出する。

燃焼資材はあらかじめ園地内に配置しておき、気温が 0°C になったら点火する。

① 霜カット（おがくず：灯油の容量比＝2：1）

霜カット2kgを袋などに入れ、10a 当たり40～60個配置する。

② A重油

40缶を利用する場合は、10a 当たり30缶以上を配置する。

なお、灯油等の保管については、保管量が2000以上～1,0000未満の場合は「少量危険物貯蔵届出書」の提出、1,0000以上の場合は「危険物取扱者」の資格が必要である。

霜カット及びA重油オイル缶使用時の昇温効果

種類	火点数/10a	昇温効果	平均
霜カット	50	1.6～1.9	1.7
A重油オイル缶	30	0.7～1.2	0.9
	40	1.3～2.3	1.7

(9) マメコバチの放飼と管理

近年、マメコバチの数が著しく減少している。マメコバチの増殖を図るため、適正な飼養管理に努める。

ア 防鳥網の設置と土取り場の準備

「ふじの展葉1週間後頃」の散布2～3日後に冷蔵庫から巣箱を取り出し、園地に設置する。鳥などによる捕食を防ぐため、防鳥網を設置する。さらに、防鳥網の内側に大きさ30cm×60cm、深さ40cm程度の穴を掘り、土取り場とする。穴の土が乾燥したら、穴に水を入れて湿らせる。

イ 巣筒の更新

コナダニなど天敵が増加しないように、古い巣箱は、次の手順で積極的に更新する。

- ① 古い巣箱に並べて新しい巣箱を設置する。
- ② 古い巣箱の前面を黒いポリ袋等で覆い、マメコバチが通れるだけの小穴を2～3か所あける。
- ③ 落花直後頃に古い巣箱を撤去し、処分する。

(10) 結実確保

近年は開花期間中の天候不順やマメコバチの減少等により、不受精花（カラマツ）や斜形果など果形の乱れが見られる。特に、ふじの単植園や授粉樹の少ない園地、花芽が少ない園地では、マメコバチの管理を徹底するとともに、積極的に人工授粉を行い、結実確保に努める。ただし、中国産花粉や来歴不明の花粉は絶対に使用しない。

貯蔵花粉がない場合は、開花の早い品種の花粉を利用する。花粉は、授粉予定日の2日以前に風船状～開花直後の花から採集する。採取した花はその日のうちに葯落としを行う。開葯後、使用する。

めしべの受精能力は、開花後4～5日間であるので、降雨で葯が褐変した花でも授粉する。長く降雨が続く場合は、雨天でも授粉を行う。

品種間の交雑和合性

花粉 めしべ	シナノゴールド	ぐんま名月	きおう	シナノスイート	ふじ、早生ふじ	王林	トキ	金星	はるか	未希ライフ	つがる	紅玉	千雪
シナノゴールド	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ぐんま名月													
きおう	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シナノスイート													
ふじ、早生ふじ	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジョナゴールド	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○
王林	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
トキ	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
金星													
はるか													
未希ライフ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
つがる													
紅玉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
千雪													

注1) 交雑和合性と判定されたものを○、不和合性と判定したものを×とした。

2) ジョナゴールドは三倍体のため花粉は利用できない。

(11) 次年産向け貯蔵花粉の確保

近年、開花期間中、低温にさらされるリスクが高まっていることから、低温でも発芽可能な品種の花粉を採集し、密閉できる容器に乾燥剤とともに入れ、冷蔵庫で保管する。

低温でも花粉が発芽可能な品種

花粉発芽可能温度	品種
10℃	シナノゴールド、金星、はるか、ぐんま名月
15℃	トキ、きおう、シナノスイート、つがる、紅玉

(12) 摘花

早期適正着果による高品質果実生産のため、人手による摘花を行うとともに、摘花剤も利用する。

ただし、開花量が少ない場合や降霜、開花期間中の不順天候、マメコバチの数の不足などで結実不足が心配される場合、えき芽花だけを摘み取る。

摘花剤の利用は、中心花を対象に人工授粉を確実に行った場合や、開花量が多く、結実が十分と見込まれる場合に使用する。

摘花剤の使い方

薬剤名	使用時期	使用回数	成分 総使用回数	希釈倍数	10 a 当たり散布量	備考
石灰硫黄合剤	満開後 (頂芽花の満開日とえき芽花の満開日)	2 回	—	100 ～120倍	350 ～5000	展着剤 不要
エコルーキー	満開日 追加散布を要する場合はその 2 ～ 3 日後に 1 回	2 回 以内	2 回以内	100 ～150倍	300 ～6000	展着剤 不要
サニデイ	頂芽中心花満開 1 ～ 2 日後	1 回	2 回以内	2, 000倍	3500	展着剤 不要

注 1) 満開日とは 7 ～ 8 割が開花した日で、花びらの散り始めでもある。

2) 薬液は、開花した花のめしべに十分かかるように散布する。

3) マメコバチに対して害作用がないので、マメコバチ導入園で利用してもよい。

4) ミツバチ導入園で石灰硫黄合剤を利用する場合は、散布前に巣箱を回収する。

5) エコルーキーは、花そう葉又は新梢幼葉の葉縁部に褐変（葉焼け）症状が発生する場合がある。

6) サニデイの散布後に葉が萎れる症状（エピナスティ）を示すが、1 週間程度で回復する。

7) サニデイの効果が確認されている品種は「ふじ」のみである。

(13) 腐らん病対策

昨年発生が多かったことから、引き続き注意する。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

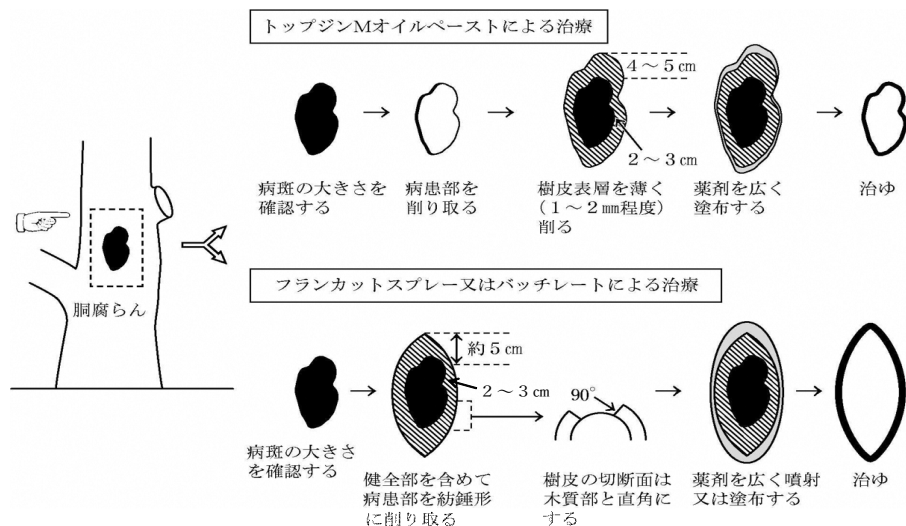
胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも 5 ～ 6 cm 広めに、3 ～ 5 cm の厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約 1 年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が 9 に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1 を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。 (<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



二次元コード1
：トップジンM
オイルペースト



二次元コード2
：パッチレート



二次元コード3
：泥巻き法

(14) モニリア病対策

今冬の豪雪により消雪が遅れ、園地が湿潤で子実体の発生に好適な条件であるため、モニリア病の発生が懸念される。

葉腐れ、花腐れを放置しておく、実腐れにつながる、見つけ次第、摘み取り、適切に処分する。



葉腐れ（発生初期）

葉腐れ（発生中期）

花腐れ

(15) 黒星病対策

「ふじの展葉1週間後頃」から「ふじの落花20日後頃」までは防除上最も重要

な時期なので、薬剤散布は10日間隔を遵守し、散布ムラができないように基準量を丁寧に散布する。降雨とともに子のう胞子が飛散するので、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。

(16) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(17) うどんこ病対策

発芽から開花までの間に、花そう・葉そう全体が白い粉状の分生子に覆われ、生長が停止して奇形化し、伝染源（芽しぶ）となる。

伝染源の密度を下げるため、被害花そう・葉そうは、見つけ次第、枝ごと摘み取り、適切に処分する。

3 その他一般作業

(1) 園地清掃 (2) 草刈り・樹冠下除草 (3) 接ぎ木

4 今後の作業予定（5月3日～5月21日）

(1) 薬剤散布 (2) 雪害樹の対策 (3) 交信攪乱剤の設置 (4) 摘花・摘果
(5) 凍霜害対策 (6) 腐らん病対策

《 春の農作業安全運動展開中！（4～5月） 》

スピードスプレーヤなどの点検・整備を行うほか、春作業に使用する資材などを早めに準備しましょう。

農作業安全のポイントを意識しながら、「最後にもう一度！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！ 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《 モモシンクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

交信攪乱剤（コンフューザーR）は、

- ①温暖化でモモシンクイガの被害が増えていること
- ②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
- ③薬剤抵抗性害虫が顕在化していること

などの理由により、令和6年からりんご病虫害防除暦の基準薬剤となりました。

ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、ぜひ自園地へコンフューザーRを導入してください。

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

次回の発行は令和7年5月2日（金）の予定です。